



筑波大学
University of Tsukuba

Tsukuba Communications

vol.12

2 対談

「教育学経営者」が求める学生の意識
河本 武氏 × 清水 一彦

(株)ユーハイム社長

筑波大学副学長・理事

8 特集 節電の夏

10 学内組織紹介 アイソトープ総合センター

12 附属学校の名物先生登場

中田 秀子先生

(附属久里浜特別支援学校)

14 TSUKUBA SPORTS 水泳部

16 TSUKUBA ART & CULTURE 野生動物研究会

18 TOPICS イベント／交流／受賞

24 羽ばたくOB&OG きくち伸氏

26 リレーエッセイ

28 茗溪会Letter

29 紫峰会Letter

30 新聞掲載・テレビ放送一覧

31 イベントカレンダー

対 談

「教育学経営者」が求める 学生の意識

河本 武氏 (株)ユーハイム社長 × 清水 一彦 筑波大学副学長・理事



けがの功名だった 外国語との出会い

清水 河本さんは筑波大学の前身である東京教育大学（以下「教育大」）体育学部健康教育科のご出身で、陸上競技部で棒高跳びの選手だったと聞いています。

河本 岐阜県の高校を卒業し、教師になろうと思って上京しました。当時は陸上部の活動に熱心に取り組んでいました。大学に入って本格的に棒高跳びを教わり、記録もグングン伸びていた大学2年の時に、突然、目が見えにくくなり、診察を受けたところ、結核性眼底出血と診断され、医者に「このままでは失明する」と言われました。1.5あった視力が0.06くらいにまで落ち、2年間ほど治療に専念することになりました。それで運動が制限されてしまったので、エネルギーが有り余ってしまったんですね。そのエネルギーのはけ口として、この機会に外国語に挑戦しようと奮起し、英語とドイツ語の授業に熱心に出るようになりました。そうしたら、けがの功名と言いますか、勉強が面白くなり、それで大学院に進むことにしたのです。

清水 当時は、大学院に進学する人は少なかったと思いますが。

河本 同学年の体育学部では、私一人でした。教育者になることを目指していて、菓子屋になるとは思ってもいませんでしたから、一所懸命に勉強しました。教育大の授業が素晴らしかったのだと思います。授業はたいへん面白く、充実していました。大学院では2年で全単位を取得したのですが、主任教授の阿部三玄先生が急逝し、私は大学院を中退しました。そのころには、父がすでにわが社の経営に携わっていましたので、「税理士の勉強をしてこい」と言われ、それから簿記の学校に1年半通って税理士試験に合格し、(株)ユーハイムに入社しました。

「一歩先じる」が モットーだった父

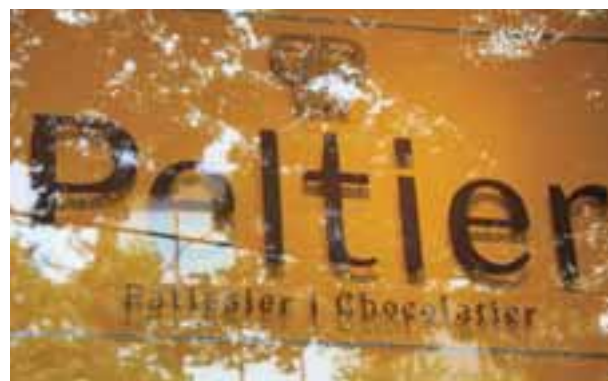
清水 お父さまは、教育大の前身である東京高等師範学校で学び、教育者となってサッカー一筋だったとお聞きしました。

河本 東京高等師範学校卒業後に、神戸一中の体育

教師となった父は、着任1年後にはサッカー部を全国優勝に導くなど、熱心な教師でした。もともとサッカーの強い学校でしたが、7年間で4回も優勝したのですから、指導者として優れていたのだと思います。しかも、結果を出すのが早い。ここがすごいと思います。父は教師のころから、「常に一歩先んじ、一刻早く」をモットーとしていまして、早く先手をという意識が強かったんです。父は、戦後、商売をしていたのですが、1962年3月、当時のエリーゼ・ユーハイム社長に経営再建のために請われまして、専務取締役として入社したんです。

清水 お父さまとユーハイムを結びつけたのは何だったのでしょうか。

河本 父は岐阜で商売をしていたのですが、教師をしていた神戸との縁もあったので、岐阜の商品を神戸でも売ることができないかと考えたんですね。飛騨高山のバターは上質で、お菓子づくりに良いということで、それを卸して商売をしていました。それでユーハイムに出入りするようになったのです。ユーハイムは多額の負債があって、経営困難な状況でした。そんな時に、経営者のエリーゼ・ユーハイムから、経営立て直しに協力してほしいと言われたのです。「あなたに断られたら、私はドイツに帰ります」とまで言われ、決意したそうです。しかし、父には金などありませんから、入社してすぐに、資金繰りに苦労したようです。銀行は相手にしてくれない状況だったのですが、たまたま銀行に父の教え子がいて、教え子たちが力を貸してくれました。当時を振り返って「教師冥利に尽きる」と言っていました。これで借金をすべて銀行からの借り換えにすることができたので、これまで高金利を払っていた分、利益が出るようになりました。1年後には経営再建のめどが立ちましたから、ここでもスピーディーに処理をしたわけですね。



教育学経営者

河本 父から学んだ事でもう一つ。父は、神戸一中時代に『神戸一中蹴球史』、ユーハイム時代には『ユーハイム物語』という記念史を出しており、「年史はバイブルである」と言っていました。「節目節目で出版をしておけば、必ず後で役に立つ」ということでした。一昨年、わが社は創業100年を迎え、節目の出版事業として、創業者のカール・ユーハイムと妻エリーゼ・ユーハイム、私の父が遺した言葉を集めた、『ユーハイム・ウェイ100訓』という本を作りました。

清水 経営難の時代から立て直されて、今では全国に350店舗、8工場、年商300億円という企業に成長し、



こうもと たけし

河本 武氏 (株)ユーハイム社長

1940年 生まれ
1962年 東京教育大学体育学部健康教育学科卒業
1964年 “ 大学院教育学研究科中退
1966年 (株)ユーハイム入社
1985年 “ 社長

1983年 ユーハイム体育スポーツ振興会設立(兵庫県)
1985年 本学体育科学分野に奨学寄附金を提供(本奨学寄附金を基に1987年から河本体育科学研究奨励賞設立)

創業100周年を迎えた御社ですが、どのような経営理念をお持ちなのでしょう。

河本 父も私も自らを「教育学経営者」だと言っています。もちろん菓子屋ですから、菓子そのもので勝負しているのですが、我々の仕事は、菓子を作る人を育て、菓子売る人を育てているという事ですね。例えば父は入社してすぐに「ユーハイム学校」を作りました。当時は中卒資格しかない職人も多い時代でしたので、高卒資格を取らせるために、このユーハイム学校で勉強させたいんです。学校の先生や教員資格のある人に来てもらい、授業が行われるのですが、2年間通う事で、社内では高卒資格を認めるというものでした。現職の社員にも高卒以上の資格を与えることで、新入社員の採用枠を高卒資格にスムーズに移行することができたのです。

清水 お父さまから「教育学経営者」という理念を受け継がれたということですが、河本さんご自身が、教育学経営者という意識を持たれたきっかけは何でしょうか。

河本 学生時代に学んだ英語とドイツ語が役立ちまして、入社3年でエリーゼさんにドイツに連れて行ってもらいました。現地の菓子工場などで実習させてもらい、この経験は「勉強になる」と実感できたものですから、わが社の職人たちをドイツに送り込もうということになりまして、ドイツ留学制度を作りました。留学している間の経費は会社が負担し、給料も支払われます。現在では「マイスター制度」として発展していて、3年間の留学でドイツのマイスター試験に合格する制度を設けています。これまでに4人のマイスターが生まれ、現在5人目が留学中です。職人だけではなく、営業職や企画職の社員も留学することができます。この留学制度を始めた事が、私自身の教育学経営者としての基盤になっています。

阪神淡路大震災を 乗り切った強み

清水 現在の日本は震災もあり、厳しい経済情勢となっています。これまで経営者としてのご苦労もたくさんあったと思いますが、一番苦しかったのはどんな時でしたか。

河本 わが社は神戸に本社がありますので、1995年の

阪神淡路大震災では、工業が被災するなど大きな損害を受けました。震災直後には141人、同じ年の4月には新入社員が64人、合計205人が自宅待機者となりました。私の経営の座標軸は「教育学」です。この自宅待機者たちを簡単に首切りするという訳にはいきませんでした。当時は銀行や周囲から「リストラすべし」と言われましたが、「俺のリストラは、社長が優しいリスから勇敢なトラに変身するリストラや！」とはね返しまして、彼らの首を切ることはしないと決めました。要は、経営者が指導力を発揮するという事。社員の心をつかんで、経営者と社員が同じベクトルに向くという事です。200人の余剰人員を抱え、同地域では当期売り上げがゼロ、全国でも売り上げは2割くらい下がってしまうという状態でしたから苦しい闘いでしたね。ただ、いつも「企業は人なり」「企業と社員は運命共同体」と言っているのに、震災があったからといって大切な社員たちを見捨てるわけにはいかなかった。そんな状態を乗り切ってきましたから、世間で現在の経済が厳しいと言っても、わが社にとっては気にするほどのものではありません。

清水 こうした中で、一昨年、なんと全社員を中国に連れて行ったそうですね。

河本 大地震の後、1999年4月から10カ年の長期経営計画「カエル運動」という社内の変革運動を実施しました。その最終年が、創業100周年となる2009年で、「カエル運動」フィナーレとして、5月から6月にかけて、ユーハイム創業の地である中国の青島(チンタオ)に、全社員800人を5班に分け、3泊4日の日程で連れて行きました。「800人を3泊4日も連れて行って、経営は大丈夫ですか？」なんて言われましたが、昨年の決算は、増収増益です。結局は社員のモチベーションをいかに上げるかという事に繋がっているんです。創業者であるユーハイム夫妻の波瀾万丈の創業ドラマ、そして会社の歴史を振り返り、経営理念を改めて学んでもらいました。その経験は、社員たちの意欲向上に繋がっています。

「環境設定による 学習の動機づけ」

清水 青島(チンタオ)への研修旅行だけでなく、一般

的に企業が社員教育などに予算をかけない傾向にあります。御社は人材教育に力を入れていますね。

河本 新入社員には、新入社員教育をします。その他、1年目、2年目、3年目、5年目に、フォローアップ教育を実施しています。主任など判断職を対象にした「入門塾」、管理職教育として「未来塾」などの研修システムを作っており、社員教育のカリキュラムはすべて自分で作っています。

清水 プログラムから教育実践まで、すべて自社で賄っているというのは、少なくなりつつあります。

河本 1年代で30人くらいの社員がいますから、例えば、1年目のフォローアップ研修を1泊2日で実施すると、それだけの経費がかかるわけです。教育というのは、お金と時間と、そして忍耐がいるものです。1年代ごとにいくつかに分けて研修を行っていて、その



しみず かずひこ
清水 一彦氏 筑波大学副学長・理事

1952年 生まれ
1974年 東京教育大学教育学部教育学科卒業
1980年 筑波大学大学院博士課程教育学研究科 単位取得退学
1988年 ≪ 教育学系講師
1999年 ≪ 教授
2007年 ≪ 大学院人間総合科学研究科長
2009年 ≪ 理事・副学長

年代で研修会がありますから、研修時期になると、そのすべてに出ている私はすごく忙しくなるんですよ(笑)。

清水 大学機関にも「ファカルティ・ディベロップメント」(Faculty Development。以下、FD)という取り組みがあります。大学教員の教育能力を伸ばし資質向上を目的とした取り組みです。1980年代に、アメリカでは学生が教員の授業の分かりやすさや教材の使い方などを評価するシステムが導入されていると、臨時教育審議会(臨教審)で報告されました。それから二十数年経ち、ようやく日本の大学でもFDの導入が義務化されるようになりました。これは、教員の教育技術を向上させる効果があります。河本さんのお話を聞いていて、企業の中で技術向上の努力を怠らずに続けていく重要性は、まさに我々が大学でFDを実践することに似ていると感じました。

河本 私はいつも「経営者の指導力」という言葉を使っていますが、先ほども言いましたように、指導力というのは経営者と社員が同じベクトルに合わせることです。筑波大学が掲げている「IMAGINE THE FUTURE.」というキャッチコピーやブランディングのプロジェクトも、学生と先生方が、同じ言葉を共有して同じベクトルに合わせる事だと思えます。FDにしても、ブランディングプロジェクトにしても、筑波大学が行っていることは、本当に素晴らしいと思います。私は大学時代に、フランスの哲学者で教育思想家のジャン・ジャック・ルソーについて研究しました。ルソーは「環境設定による学習の動機づけ」という言葉を力説しています。私が創業の地である青島に社員を連れて行ったのも、筑波大学の取り組みも、この「環境設定

による学習の動機づけ」に繋がっていますね。わが社が厳しい経済環境の中で増収増益を実現したように、筑波大学の取り組みも大学の活性化に繋がる事だと思います。

清水 私はFDが最終的に教育共同体を形成していく事に繋がると思っています。個々の教員がバラバラに教育を実践するのではなく、共同体として教育に取り組むということです。御社の取り組みは、まさに企業内で共同体を形成することに繋がっていますね。

太陽と月のように 学生と大学が輝き合う

清水 1985年以降毎年、河本さんから本学へ奨学寄附金をいただき、1987年からは、体育科学分野における若手研究者の奨励のため、「河本体育科学研究奨励賞」を設けられておられますが、どのような経緯から始められたのでしょうか。

河本 父は「企業活動というのは、何らかの公害を生み出している。多くの社員が電車で移動するだけでも、小さな公害をまき散らしている。だから公益を生み出さなくちゃいかん」と考えていました。そこで1983年から「財団法人ユーハイム体育スポーツ振興財団」を作り、兵庫県のスポーツ振興に貢献し、また筑波大学にも何か貢献したいという事で、表彰制度を設けました。「動機付け」には内発的と外発的の2つがあります。表彰制度というのは外発的な動機付けかも知れませんが、こうした外発的な動機付けを内発的な動機付けに結びつけてもらい、学生の皆さんに頑張ってもらおうと思っています。

清水 毎年3~4人の研究者が表彰を受けていますが、受賞者は教員や指導者になったりしています。まさに内発的な動機付けに繋がっていると思いますね。

河本 大学時代というのは、人生の中で一番素晴らしい時期です。しかし、若い時はそのことに全く気がつかず、学生時代を急いで駆け抜けていく。大学から社会に出て、その先に人生があると思っているんですよ。私は「一日一生」だと思っています。つまり、今を大切に生きてこそその人生です。学生の皆さんには、今こそが素晴らしい時期だという事を知ってほしい。素晴らしい環境の中で過ごすことができるのだから、「人間的偏差値」を



高めることをしてほしいです。ウォルト・ディズニーが「If you can dream it, you can do it」という言葉を遺しています。夢を持てば半分達成したようなものです。しかし、夢だけでは何も起きない。夢を実現させるためには「構想力」が必要です。大学時代こそ、それを身につけることが重要です。わが社は今年で102年目となりましたが、昨年から「New Normal(新しい普通)」という目標を掲げました。職場内の完全禁煙、新入社員や若い社員には、ドイツ語検定と簿記検定を受けるように勧めています。そして、現在4人が行っているドイツ留学制度を充実させていきたいと考えています。この目標の先には、私たちが目指している「2世紀企業」があり、200周年ではもう一度創業の地に全社員が集まるという「夢」があります。我々が社内教育に力を入れているのは、お客さまに輝いていただくためです。お客さまが太陽の如く輝いてこそ、我々は月のように反射光で輝くことができます。それは、筑波大学も同じ事だと思います。学生やOBが輝く事で、反射光として大学が輝く。この月と太陽のような関係を、上手に作ってほしいと願っています。山田学長が掲げる「IMAGINE THE FUTURE.」というキャッチフレーズが、こうした関係を築くためになるよう、ぜひ実践してい

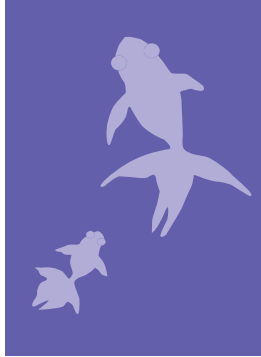
てほしいと思います。

清水 学生が輝くからこそ、大学が輝き、そしてまた学生が輝くという好循環の関係ですね。現在、大学は非常に厳しい就職問題を抱えています。そんな中で学生は就職活動で疲弊してしまい、輝くことが困難になっています。

河本 今後、筑波大学に伺い、就職の事も含めて学生の皆さんにお話する機会があるかと思いますが、まず、「あいさつ」をきちんとする事。これだけでも若い人たちは輝くことができます。すべてのコミュニケーションはあいさつから始まります。就職面接でも、極論すれば最初の4秒間の印象で決まってしまう部分があります。あいさつがきちんできて、お辞儀がしっかりできる。筑波大学の学生なら、仕事やポストを与えられれば、どんなに困難なものでも突破できる力は身に付いていると思って自信を持ってほしいです。まずはきちんとあいさつができるようにする。それだけでも学生は輝くことができるのですから。

清水 私「今いる自分がベストなのだ」と、学生たちに自信を持つように話していますが、河本さんから学生に向けて、素晴らしいメッセージをいただくことができました。本日はどうもありがとうございました。





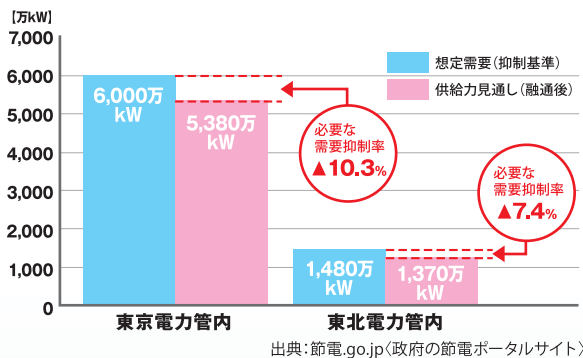
節電の夏

この夏、電力が足りません。みんなで電力を節約しなければ、夏を乗り切れません。職場でも、学校でも、家庭でも、しっかり節電に努めましょう。

なぜ節電が必要？

この夏、東京電力管内で想定される電力需要は6,000万kWです。一方、東京電力の供給力は、東北電力に最大限の融通を行うことを前提に5,380万kWの見通しとなっており、想定需要と供給力の間に620万kWの不足が生じています。このため、様々なリスクも踏まえて一定の余裕を持った目標設定として、15%削減という節電目標が政府において設定されました。

■ 今夏の電力の需給バランス

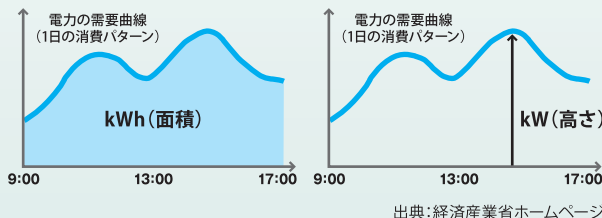


面積？ 高さ？

kWhは、電気の発電や消費の総量(面積)を示す単位として使われています。一方、kWは、瞬時瞬時の電気の発電や消費(高さ)を示す単位として使われています。

今回の震災では、発電所が被害を受けたため、電力会社のピーク時供給能力(kW)が減少しました。そのため、ピーク時におけるkW(高さ)での制限が必要となっています。

■ kWh(面積)とkW(高さ)



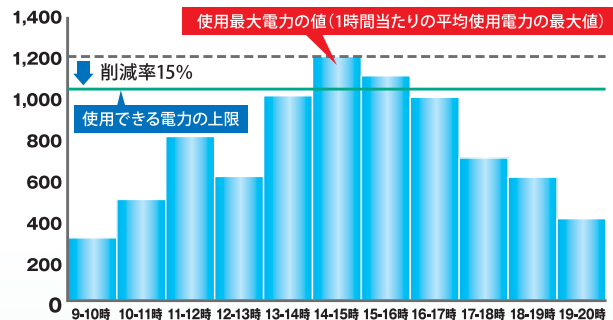
どのように規制されるの？

節電目標は、大口需要家(電力契約500kW以上の事業者)、小口需要家(電力契約500kW未満の事業者)、家庭のすべてにおいて、均一に15%削減とされています。このうち、大口需要家については、電気事業法第27条

に基づく電気の使用制限により、昨夏の使用最大電力から15%の削減が義務付けられています。この使用制限に違反した場合、1時間毎に100万円以下の罰金の対象になります。

小口需要家と家庭については、法令上の義務付けはありませんが、15%削減に向けて、小口需要家は、自主的に節電行動計画を策定・公表し実施すること、家庭は、意識して節電のための具体的行動に取り組むことが求められており、様々な節電サポート事業が行われています。

■ 使用制限のイメージ



■ 上のグラフの場合

- ① 昨夏の使用最大電力は1200kW(使用電力の瞬間最大値ではなく、1時間あたりの平均使用電力の最大値であることに注意)。
- ② ①の値に0.85を乗じて得た値が、今夏使用できる電力の上限である1020kWとなる。
- ③ よって、今夏の使用制限期間・時間帯における1時間あたり使用最大電力が1020kWを超えないよう、電気を使用する必要がある。

使用制限はいつまで？

東京電力管内では、7月1日から9月22日までが法令上の使用制限の期間です。ただし、土曜日、日曜日、祝日を除きます。制限のかかる時間帯は、午前9時から午後8時までです。

筑波大学の対象施設は？

筑波キャンパスでは、ほぼすべてのエリアが法令による電気の使用制限の対象となっており、電力契約の単位により、一の矢、平砂・追越、春日、それ以外の全域(以下「中央」とします)の4つに区分されます(東地区(馬場)

と春日プラザは小口需要の施設)。また、現在改築中の東京キャンパス大塚地区の新校舎も大口需要に該当する施設であり、8月以降、使用制限の対象となる予定です。

東京キャンパス小日向地区や各附属学校、遠隔地の研修所等は、小口需要の施設です。また、東京キャンパスの神保町地区と秋葉原地区はテナントで、直接の電力契約はありませんが、同様に節電対策が求められます。

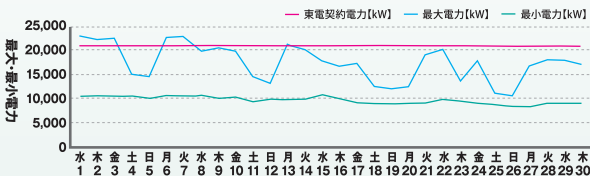
筑波大学の対応方針は？

筑波キャンパス（中央）の昨年夏のピーク電力は22,860kW（9月1日）、最小電力は昼夜・土日を問わず約10,000kWで推移しています。この10,000kWは比較的固定的な部分と考えられますので、15%削減の大部分を昼間の上乗せ分である約12,000kWから削減する必要があります。つまり、この12,000kWについて15%を超える削減を行わなければ、全体として15%削減を実現することは難しくなります。

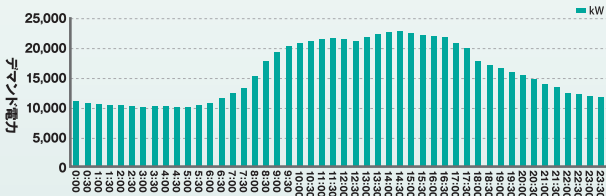
このため、筑波キャンパス（中央・春日）については、削減率25%を目標として節電対策に取り組み、法令により義務化された15%削減を確実に達成することとしています。東京キャンパス（大塚地区新校舎）については、移転初期のため契約電力が低く設定されていますので、25%削減を目標とはしていませんが、法令上の15%削減には確実に対応しなければなりません。

小口需要の各施設では、それぞれの状況に応じた節電行動計画を策定し実施しています。

■ 筑波キャンパス（中央）の最大・最小電力推移（昨年9月）



■ 筑波キャンパス（中央）のピーク日の電力推移（昨年9月1日）



学生宿舎や附属病院は？

一の矢学生宿舎と平砂・追越学生宿舎の各エリアも、本学の大口需要施設として15%の削減が義務づけられており、違反した場合には罰金の対象になります。制限の緩和を申請していますが（6月現在）、15%削減に向けて最大限努力しなければならないことには変わりありません。なお、教育研究のエリアとは電力使用の事情が異なる

ため、25%削減を目標とはしていません。

附属病院は、筑波キャンパス（中央）と電力契約の単位が同じであるため、15%削減対象の一部となっていますが、生命・身体の安全確保に不可欠な施設ですので、診療等に支障のない範囲で可能な節電対策に取り組むこととしています。

TEMS !! <http://tems.tsukuba.ac.jp/>

筑波大学では、今回の節電対策を機に、学内の電力使用状況をリアルタイムに把握する「電力情報システム：TEMS (University of Tsukuba Electricity Monitoring System)」を新たに開発しました。これは、システム情報工学研究科の鈴木健嗣講師の提案によるもので、鈴木講師自ら、システム情報工学等技術室の山内技術専門職員、施設部施設環境課の前島課長、中島係長とともに開発にあたり、1か月という短い期間で構築されました。

これだけの規模の大学で、地図情報システムとも連携して電力情報を可視化することのできるTEMSは、極めて画期的で先進的なシステムです。TEMSは今回の節電対策のみならず、今後の学内の電力管理を行っていく上でも強力なツールになります。



TEMSの画面（グラフ表示）



TEMSの画面（マップ表示）

参考URL

電気の使用制限関係（経済産業省HP）

▶ <http://www.meti.go.jp/earthquake/shiyoseigen/index.html>

節電.go.jp（政府の節電ポータルサイト）

▶ <http://setsuden.go.jp/>

経済産業省HP

▶ <http://www.meti.go.jp/setsuden/index.html>

文部科学省HP

▶ http://www.mext.go.jp/a_menu/saigaijohou/syousai/1306592.htm



健康管理に注意！

- 食事、睡眠などの生活習慣を整えましょう
- こまめに水分補給しましょう
- 普段と異なる環境下での作業、勉強には心身へのストレスがかかりますので、作業時間の変更や休憩時間をこまめに確保しましょう
- 室内では軽装に努め、室外では日光を浴びないように（帽子着用など）服装を工夫して、体への負担を減らしましょう

アイソトープ総合センター

アイソトープ総合センターは、放射性同位元素を取り扱う施設。「アイソトープ」といってもなかなか馴染みがないと思いますが、現在、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故によって、「放射能」「放射線」という言葉が日常的に使われるようになりました。これらの言葉ととても近い関係にあるのがアイソトープです。同センターでは、原発事故以降、学内のモニタリングポストで放射線量を計測し公表しています。



農林技術センターのミニトマト(測定試料)を持った松本センター長



Ge検出器による試料のガンマ線測定

■「放射性同位元素」を取り扱う

私たちの生活の中であらゆるモノを構成しているのが原子(=元素)です。この原子の中には、性質が同じであるにも関わらず、重さの違う原子があるのですが、これを「同位元素=アイソトープ」と呼びます。その同位元素の中には、活発な状態から落ち着いた状態に原子活動が変化する際に、「放射線」を出す「放射性同位元素」と呼ばれる原子があります。こうした同位元素から発生する放射線には、「透過」「写真」「発光」「電離」などの働きがあり、それらの働きを利用して、医療の検査・治療に役立てられるなど、私たちの生活の中で活用されています。一方で、同位元素の中には、そこから出される放射線が人体(遺伝子)に大きな影響を与えるものもあります。ですから、そうした放射性同位元素の管理は十分に注意が必要となるのです。それを管理しながら、あらゆる放射性同位元素の研究をし、取扱者を教育訓練するのが、アイソトープ総合センターの役割です。

■センターが担っている「3つの柱」

アイソトープ総合センターは、「共同利用」「教育訓練」「放射線管理」の3つを柱に設立されました。

「共同利用」は、放射線同位元素を利用した研究・教育のために、学内に留まらず、あらゆる機関と協力し合うことを担っています。

一方で、放射線の核種を管理するためには、文部科学省に申請をした上で、非常に厳重かつ丁寧な管理が必要となります。そのため、一般的な研究施設では、日常的に

使用される核種だけの数種～十数種だけ管理する場合があります。同センターでは「放射線管理」に関して大きな役割を果たすため、約150以上の核種を管理し、学内で必要となるような核種を網羅して管理しています。これも、共同研究には必要な活動です。

また、「教育訓練」として、放射線業務従事者のための初心者講習会と更新講習会を、年間5回ずつ開催しています。講習を受けた人々には修了証を発行し、放射線業務従事者として認定されます。

■原発事故以降の対応

「これまでの役割に加え、最近では、原発事故に伴う放射性同位元素の飛散と、放射線による被曝に対応する種々の活動を担っています。センターの職員は非常に多忙になりました」

松本宏センター長が言うのは、同センターが3月15日以降から行っている、大学敷地内の放射線量測定や、避難者向けのスクリーニング活動などを指しています。計測された放射線量の結果は、ホームページなどに掲載され、学内の対応に活用される他、学生や地域の皆さんに正確な情報を提供する事で、地域全体が安心して社会活動を行うことができることに繋がっています。

福島原発事故以降、放射能の影響は誰もが気になるところです。それに対して、「センター周囲のモニタリングポストで現在計測されるのは、平均して0.15 μ Sv/hという数値です。大学敷地内などで若干の違いはありますが、外部被曝に関しては、いずれにしても今の放射線量で、皆さん

スで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。



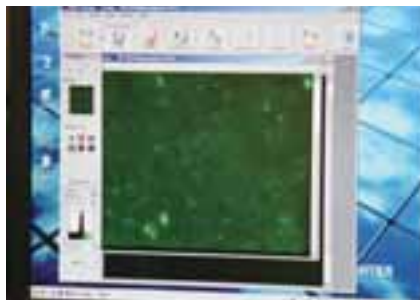
モニタリングポスト



ハンドフットクロスモニターによる退出時の汚染検査



放射性同位元素の貯蔵室



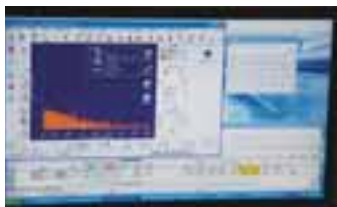
イメージングプレートによる放射性同位元素の分布



施設の放射線管理システム

が心配する必要はないと考えています」と、松本センター長。同センターの末木啓介准教授も、「今日もつくば市の会合で、市民が放射能の影響を心配していると話題になりました。センターでは、空気中のちりなどを、ダストサンプラーで収集して測定も行っていますが、風の強い日などの測定値を見ても、現在は強い放射性物質がちりになって舞っているとは思えないので、あまり問題ないと思います。今後は、モニタリングポストの測定値だけでなく、空気中のダストサンプラーの測定値も、センターから情報発信していきたいと思います」と話す。

また、現在公表されている計測推移を末木准教授は「計測開始の3月15日には大きな数値が出ており、次いで、3月21日前後に数値が高くなっています。この日は福島原発より南側の地域に大量の雨が降ったのです。その雨の影響で数値が上がったのだと思います。よく言われる話題で、原発周辺の20キロ圏内にある南相馬市よりも、遠くにある飯館村の放射線量が高いと発表されていますが、やはり距離ではないのですね。別の大学の計測で千葉県北西部が数値高いと話題になったので計ってみました。たしかに筑波大学よりも千葉県北西部内の方が高い。風向きや天候の影響で放射線量も大きく変わるといことが、よく分かります。いずれにしても、現在の数値なら筑波大学の周辺では問題ないと思われるので、原発事故がこれ以



Geの検出器によるガンマ線スペクトル

上悪化しなければ、心配は要らないでしょう」と語る。

思わぬ事で多忙になった同センターですが、モニタリングポストの測定値などは、今後もホームページなどで公開し続ける予定です。

筑波大学アイソトープ総合センター 「3つの柱」

● 共同利用

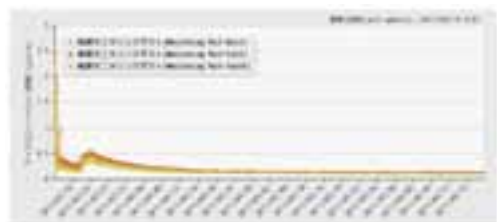
放射性同位元素並びに放射線関係の施設及び機器を総合的に管理し、これを諸分野の研究・教育のための共同利用に提供する一方、それに関連する放射線計測学、放射線管理学等の周辺分野の研究開発を行い、共同利用の効率化をはかる。

● 教育訓練

放射線取扱者の教育訓練を実施して、放射性同位元素・放射線ならびにその安全取扱に関する正しい知識、技術の普及をはかる。年間5回ずつ、新規取扱者の講習と更新用の講習を行っている。

● 放射線管理

本学の放射性同位元素ならびにX線発生装置の管理を総合的に行い、放射線障害を防止する。約150種類の核種を取り扱っている。



モニタリングポストの計測推移

本学には、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に11校の附属学校があり、いずれもそれぞれの分野でわが国の教育をリードしています。そこには、全国でも有名な先生たちが大勢います。このコーナーでは、各学校の名物先生を順次紹介しています。

附属学校の名物先生登場!

第2回



今回の先生
筑波大学附属久里浜特別支援学校
なかた ひでこ
中田秀子先生(栄養教諭)

多様な職場を経験し、 栄養教諭として6年目

今回の名物先生は、東京湾の出入口近くにある金田湾を見下ろし、背後を緑の山に抱かれた附属久里浜特別支援学校(横須賀市野比)の中田秀子先生。

これまで、大学病院や老人ホーム、さらに一般の事業所の栄養士などを経て、平成2007年の3学期から本校に着任、今年で7年目になる(着任当初は学校栄養職員)。本校は設置当初から、教員研修の場でもあったことから、教師は2~3年で転任することも少なくないため、7年目とはいえ学校内では、すでにベテランの先生だ。

中田秀子 なかた・ひでこ

神奈川県生まれ
短大卒業後、大学病院、製薬会社研究所、事業所(給食センター、レストラン)、大学で学び直し、県立病院、特別養護老人ホーム等を経て、現在筑波大学附属久里浜特別支援学校栄養教諭・管理栄養士。

こだわりの強い自閉症児の 偏食を改善したい

青い海が窓の外に広がる明るい食堂で、50人ほどの幼児・児童と教師が給食を食べている。

中田先生は、給食の時にはエプロンをかけ、子供たちのテーブルを回りながら一人ひとりの給食の様子を見守る。栄養教諭というよりも、やさしいお母さんの雰囲気だ。「ようし、がんばって、食べてみよう」

しばらくすると「○○くん、ひじきが食べられました」と担任教師の声、すると席に座っていた子供たち全員が拍手。苦手な食べ物が食べられたことをみんなで褒める。絵入りで給食の献立が載せられた給食ノートに、食べられた印として赤や青色のシールを貼る。先生や友達に褒められ



た幼児・児童は、どこか誇らしげな表情だ。

一見普通の給食風景だが、よく見るといっように食べようとしない子や、いぶかしげに目の前の給食をにらみつけているような子もいる。

「自閉症の子の場合、食に対しても強いこだわり、偏りがあるのが特徴です。そして、食べることに興味がある子と興味がない子がいて、2、3日何も食べなくても平気な子がいたりします。自閉症は中枢神経の発達障害なので“食べる”ことも影響を受けるようで、満腹感を感じにくいとか、空腹感を感じにくいという子もいます。入学当初には、2～3種類の食べ物しか口にしない子も多く、ご飯とふりかけとか、麺しか食べないとか。また、初めてのものはたいてい見向きもしなかつたりします」と中田先生。

まさに幼児・児童それぞれで、ひとくくりにはできないのだという。

食は全ての基本、子供たちにとって健康な身体や心をつくり、正しい生活習慣や社会性を身につけるためにももともと大事なものと中田先生は言う。

「どれだけ計算された献立でも、結局食べてもらえなければ栄養のバランスは取れません。魅力的な献立になるように心掛けています。子供たちに食べようという意欲を持たせたり、チャレンジしやすくして、食べられたら褒めて、またがんばろうと思えるように工夫しています。」

「献立は基本的に、週の中でご飯を3食、パンを1食、麺を1食という形で立てます。水曜日は子供たちが好きな麺にすることが多いのですが、『水曜日は麺』と決めてしまうと、それが子供たちの新たな“こだわり”になってもいけないので、ときどきガラリとパターンを変えたりします。そうすることで、環境や状況の変化を受け入れることができるようになっていきます。」

「また本校では、他校と違い、毎日牛乳を出すということをしていません。同じ年代の障害のない子に比べると活動量が少なく食べる量も少ないので、牛乳を飲むとお腹がいっぱいになってしまい、他のものを食べられなくなつたりします。また、食べる励みになるものがないとがんばれないので、牛乳の代わりにヨーグルトなどのデザートをつけています。まずは、いろんなものを食べる経験をするということを目指しています」



学校給食を通じての「食育」の要として

中田先生は、通学できない子供のための寄宿舎の食事も含め、朝食、昼食、おやつ、夕食と1日に4食のメニューを決めていく。主菜の魚、肉、卵、大豆製品などをさまざまに組み合わせて、食材が重ならないように工夫している。

「幼稚部と小学部を合わせて約50人が給食を食べていますが、性格もタイプも違う50人が一堂に会して給食を食べるというのは大変なことです。これまで、老人ホーム、事業所、病院など、いろいろな職場を経験してきたことが、ここで活きているという実感はあります」

2005年4月に制度が開始された栄養教諭は、学校における食育の要でもある。“給食を通じて、豊かな心と健やかな身体をはぐくみ、正しい食習慣を身に付け、友達と一緒に給食をとることで社会性をはぐくむ”という目標を達成するため、中田先生は担任の先生らとも相談しながら、手洗いから配膳、後片付け（下膳）まで、視覚的な手掛かりが理解しやすい子供たちのために、イラストや写真を給食室に掲示するなど、食育指導でもさまざまな工夫をしている。



献立のリクエストカード「かい」と「さかな」です。

「子供たちの偏食の改善というのが、いちばんの目標ですが、夏休みなどには、教職員に対しての食育研修会を行ったり、保護者に対しては、試食会や毎月のお便りを通じて、大事だと思ふことを繰り返し伝えさせていただいています」

栄養教諭としてのやりがいとは聞くと、「子供が苦手なものを食べられるようになったということを知ると、ほんとに嬉しいですね」と、明るい笑顔が返ってきた。



松本末男 副校長

信念を曲げない強さと、 繊細さを併せ持った先生

食は命を支える大切なもので、栄養教諭の役割はとても重要です。中田先生は、一生懸命すぎるほど熱心に子供たちのために努力しています。阻しゃくが難しい児童のために3年間にわたって特別の献立を作るといった、粘り強く、繊細な仕事をする先生です。その一方で、給食に対する信念は絶対に曲げない強さも持ち合わせていて、いま家庭ではあまり作らないものをあえて献立に入れて、日本の食文化などにも配慮しながら、子供たちが少しでも多くの食の体験ができるように工夫しているのが分かります。また手洗いから配膳、後片付けまでの給食指導など、食育の指導もきめ細かく実践してくれています。

第12回 水泳部

自主・独立の精神×水泳科学研究で、 世界に羽ばたく選手たち



本学前身である東京高等師範学校の校長を務めた嘉納治五郎は、柔道の普及と並行して、“国民皆泳”を目指し、いち早く教育に水泳を取り入れた。「その実現の中心となれ」と、同氏が日本で初めて発足させた水泳部は、109年の伝統を誇り、日本を代表する選手を輩出するだけでなく、多くの同部出身者が我が国の水泳教育の普及・発展に貢献し、今日まで水泳教育会の牽引車として活躍している。

現在、同部は、競泳、水球、飛び込み、シンクロの4部門で構成されている。「競泳は仙石泰雄先生、シンクロは本間三和子先生、水球は高木英樹先生、飛び込みは吉田章先生と、各部門に専門家の先生がおり、研究と実践の両立を図って新しいトレーニング理論を開発し、それをコーチン

グ場面に還元して、競技力向上に貢献しています」と、椿本昇三部長兼競泳監督。競泳部門からは、オリンピックに、3大会連続して選手を輩出している。文武両道を実践する本学は、練習時間が他大学の半分くらいしか取れないが、競泳チーム約50名を率いる主将、倉貫壮選手(体専4年)は、「練習時間は短くても、頭を使った練習をして強くなっていくのが、筑波大水泳部です」と頼もしい。

また、同部門には、パラリンピックに2大会連続出場している日本のホープ、山田拓朗選手(同2年)も在籍。「最大の目標は、来年のロンドンパラリンピックでのメダル獲得ですが、まずは、8月の国際大会で、来年につながる泳ぎをしたいと思っています」と、抱負を語ってくれた。

シンクロ部門の横山愛実選手(同3年)は、平日は競泳部門と一緒に泳いで鍛え、週末に地元・長野のクラブでシンクロの練習を重ねて、日本代表レベルで活躍中だ。この春、2人目の部員が入り、「インカレのデュエット部門で、上位入賞を目指します」と、はりきっている。

水球部門は、2年連続インカレ準優勝の雪辱に燃える。練習メニューを作る主将の三浦敏史選手(同4年)は、「自分達で



考えながら練習して、強くなっていくのが我がチームの伝統です」と、胸を張る。同部門からは、20年以上にわたり、多くの日本代表選手が選出され、世界で活躍しており、現在の日本代表チームにも、棚村克行選手(同4年)や、志水祐介選手(本年3月卒業)他OB2名が加わっている。

飛び込み部門は3名でインカレ3連覇を目指す。昨年までは4名でインカレ2連覇を果たした超少数精鋭チームだ。メンタルが大きく左右する競技だけに、「試合の”こころ”という時にしっかり決められるような練習をしています」(飛び込み主将 長谷川寛人選手(同3年))とのこと。「各部門とも、練習時間が短く、選手数も少ない中で、トップレベルを保ち続けているのは、奇跡に近いことなんです」と、



水球のゲーム(青2番筑波の選手がシュートを打つ所)



筑波大学の屋外プールでの練習風景



北京オリンピック選手壮行会(於:茗溪会館) 多数のOB・OGが参加



2010年11月 水泳部の大恩人嘉納治五郎先生銅像除幕式での記念写真(水泳教員・先輩と学生)

誇らしげに語る榎本部長兼競泳監督。奇跡は、水泳科学研究に基づいた練習・

実践に、自主・独立の精神で果敢に取り組んでいる選手たちが起こしている。

このコーナーは、前身の師範学校から135年以上の歴史を有し、スポーツ分野において、オリンピックの金メダリストを始めとし、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会を紹介します。主な競技成績及び今後の試合日程を紹介しますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【つくばスポーツ ONLINE】ホームページ <http://club.taiiku.tsukuba.ac.jp/>

【筑波大学体育会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

水泳部

■ ジャパンオープン 2011

- 【男子200m背泳ぎ】6位 金子雅紀(体専2年)
- 【男子400m個人メドレー】7位 村川諒(同1年)
- 【女子50mバタフライ】5位 佐藤咲季(同3年)
- 第58回 全国国公立大学選手権 水泳競技大会 8 / 10.11
- 第87回 日本学生選手権水泳競技大会 競泳競技 9/2~4、飛込競技 9/3~4、水球競技 9/1~4
- 第66回 国民体育大会水泳競技大会 競泳競技 9/9~11、飛込競技 9/9~11、水球競技 9/12~15、シンクロ競技 9/7
- 第87回 日本選手権水泳競技大会 水球競技 9/30~10/2

柔道部

■ 2011年アジア選手権大会

- 【女子48kg級】優勝 遠藤宏美(同1年)
- 【男子66kg級】優勝 森下純平(同3年)
- 【男子90kg級】2位 西山大希(同3年)

■ 全日本選抜体重別選手権大会

- 【女子78kg級】3位 緒方亜香里(同3年)

■ 柔道グランドスラム・モスクワ大会

- 【男子90kg級】2位 西山大希(同3年)
- 【女子78kg級】優勝 緒方亜香里(同3年)

2011年世界柔道選手権大会(フランス・パリ) 8/23~28
男子66kg級 森下純平(同3年)、女子78kg級 緒方亜香里(同3年) 出場
平成23年度全日本学生柔道体重別選手権大会 10/8~9 日本武道館

陸上部

■ 第90回関東学生陸上競技対校選手権大会

- 【女子】総合優勝 ※19連覇 【男子】総合3位
- 【男子走り幅跳び】優勝 嶺村鴻汰(同1年) 7.70
- 【男子110mH】優勝 大室秀樹(同3年) 14"14
- 【男子走り高跳び】優勝 戸邊直人(同2年) 2.19
- 【男子十種競技】優勝 高橋尚(同4年) 7035点
- 【女子400mリレー】優勝 中野瞳(同3年)、立山紀恵(同3年)、佐野布由実(同4年)、阿部瑛美(同4年) 45"73
- 【女子100m】優勝 佐野布由実(同4年)
- 【女子走り幅跳び】優勝 中野瞳(同3年) 6.18

■ 第95回日本選手権

- 【男子走り高跳び】優勝 戸邊直人(同2年) 2.22
- 【女子円盤投げ】2位 高橋亜弓(同4年) 51.31
- 【女子三段跳び】3位 前田和香(同3年) 12.80

天皇賜盃 第80回日本学生陸上競技対校選手権大会 9/9~11 熊本 KKWING

バスケットボール部

■ 第60回関東大学バスケットボール選手権大会

- 【男子】4位 優秀選手賞・アシスト王=田渡 修人(同4年)
- 第87回関東大学バスケットボールリーグ戦 9/3~10/30

ハンドボール部

■ 関東学生春季リーグ戦

- 【男子】6位 【女子】6位 敢闘賞=井上元輝(同4年)

第12回 野生動物研究会

自然をこよなく愛すハンター集団 互いに影響し合い、興味は無限に広がっていく…



自然豊かな環境が本学の大きな魅力のひとつ。その魅力を存分に享受しているのが、『野生動物研究会』（和田洋顧問）だ。総勢23名のメンバーは、本学構内の鳥や魚、昆虫に鋭く目を配り、毎週水曜日に開かれるミーティングで情報交換をしている。

「第2、第3エリア間を流れる水路（通称：天の川）のほとりのポプラの木に、コムラサキの幼虫を見つけました。7月頃にはきっと、美しいコムラサキ（蝶）が見られるはずですよ」と、とっておきの情報を教えてくれたのは、田中裕人代表（生物資源

学類3年）。この“天の川”には、時折カワセミも姿を見せるという。一方、「松美池や天久保池で、外来種のブルーギルがすごい勢いで繁殖していて、このままではコイやヘラブナがいなくなってしまう」と、危惧していることもある。



自分がやりたいことを みんなでやる楽しみ

学内での活動は、ごく一部にすぎない。定期的な活動は、国立科学博物館・筑波実験植物園の土曜早朝バードウォッチング、宝篋山*自然観察、春・夏自然観察旅行、学園祭出展、「筑波大学新聞」への定期寄稿など。その他にも、釣りや化石探索など、それぞれがやりたいことを企画しては、賛同したメンバーで実行しており、活発な活動は多岐にわたる。

「今のメンバーには、虫が好きで、虫を追いかけている昆虫ハンターがたくさんいま

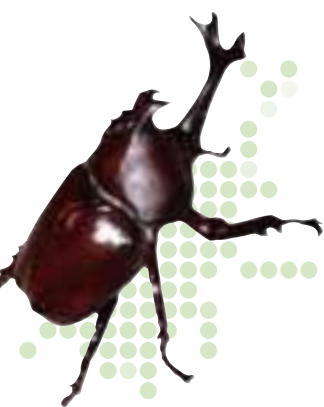


す。でも、魚ハンター、野鳥ハンター、微生物ハンター、化石ハンター、爬虫類ハンターなど、興味は実に様々。お互いに影響しあって、どんどん興味が広がっていくのもサークルの楽しさです」と語る、昆虫ハンターの田中さん自身も、サークル活動を通して「海釣りの魅力にハマった」という。

アカショウビンを追って戸隠へ

夏休みには、北は北海道から南は沖縄まで、活動目的を定めて5~6泊の自然観察旅行に出かける。去年は、真っ赤な野鳥、アカショウビンやライチョウを探しに戸隠・立山へ行った。残念ながら遭遇できなかったが、たくさんの野鳥を観察した

り、昆虫や魚を採取。その土地ならではの野生動物との出会いが、つくば周辺での定点観察とは違う楽しみだ。



自然の魅力をたくさんの人に

「筑波大学新聞」に定期掲載されているのは、本学内や宝篋山で撮影した野生生物や野草の写真と、その解説をしているコラム「筑波自然図鑑」。見栄えのするものや、宝篋山に生息する”きれいな水の指標生物”などを中心に紹介し、野生生物の美しさ、つくばの自然の豊かさを本学生にアピールしている。

また、筑波実験植物園では、エントランスの園内マップ上に、その季節に各所で観察できる野鳥のパネルを掲示したり、企業からの依頼に応じて、ホームページに、

つくば周辺に生息する野鳥や昆虫の紹介コーナーを製作するなど、知識を生かした様々な啓発活動も行う。

「今後はもっと、宝篋山の自然観察に力を入れていきたい。熱心な1年生が7名も加わったので、より充実した観察ができると思います」と、強力な新入生の加入で、ますます気合いの入る田中代表。その成果が結集する学園祭出展に、ぜひ足を運んで欲しい。

宝篋山：筑波連山の支峰のひとつ。標高461m。本学から自転車で30分ほど。環境省が提示する”きれいな水(水質階級1)の指標生物”が生息する自然豊かな山。7月にはホタル鑑賞ができる。



宝篋山

このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、発表会、大会、ボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

つくば鳥人間の会

■ 第34回鳥人間コンテスト選手権大会 7月30~31日

▶ 場所：滋賀県彦根市松原水泳場 琵琶湖東岸

歌留多部

■ 全国職域学生歌留多大会 8月28日

▶ 場所：江戸川区スポーツセンター

磯田文雄文部科学省高等教育局長が筑波大学を視察

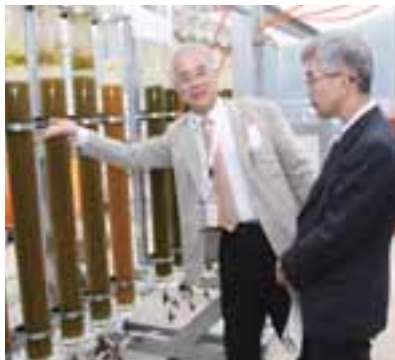
磯田文雄文部科学省高等教育局長が、5月30日、東日本大震災による本学の被災状況等を視察されるため来学されました。

磯田局長は、山田信博学長および森本浩一副学長から、本学の被災状況の概要について説明を受けた後、藻類バイオマス実験棟において渡邊信教授(生命環境科学研究科 生命共存科学専攻)から、津波による塩害を受けた水田等を活用した藻類バイオマスプラントなどの説明、研究基盤総合センターにおいて新井達郎同センター長および喜多英治同センター応用加速器部門長からペレトロンタンデム加速器の内部崩落の説明、体育・芸術図書館において施設事務担当者から書架倒壊の状況説明、総合体育館において朝岡正雄系長および阿江通良体育専門学群長から同体育館の長期間利用中止が続いた場合の弊害等についての説明、並びに、附属病院において五十嵐徹也同病院長から病棟の制震化の必要性の説明を受けられ、各施設を視察されました。

被災状況等の視察を終え、磯田局長からは「教育研究施設の早期復旧及び附属病院病棟の制震対策に努力したい」旨のコメントを頂きました。



総合体育館 外部の破損



渡邊信教授(左)の説明を受ける磯田文雄局長



加速器部門の説明



総合体育館 内部の状況

筑波大学の酒・純米大吟醸「桐の華」醸造

本学の校章(五三の桐)にちなみ、つくば市内の桐の花から採取した1675株の酵母から、一つの清酒酵母を開発、来福酒造会社と連携し、純米大吟醸酒「桐の華」を本年5月から本学の売店等で販売を開始しました。本学では、大学ブランドグッズの一環として、2009年5月に純米吟醸酒「桐の華」を醸造し発売しておりますが、今回は、酒米としては最高級の山田錦を使用し、華やかな純米大吟醸を醸造しました。また、同酒は、桐箱入りの透明な瓶で、文字は、中村伸夫教授(人間総合科学研究科 芸術専攻)、デザインは、原忠信講師(同)が行いました。

現在、本学の紫峰会売店等で3,990円で販売しておりますので、是非ご賞味ください。



第7回筑波大学産学連携交流会 in 東京開催

「第7回筑波大学産学連携交流会 in 東京(主催:筑波大学産学リエゾン共同研究センター及び筑波大学産学連携会)」が5月27日、本学東京キャンパス(秋葉原地区)法科大学院講義室において開催されました。

この交流会は、本学における研究開発活動の中から得られた成果のうち、将来的に産業活動に利用されることが期待される、又は、将来的に何らかの影響を与えることが予想される研究シーズを新たに発掘し、筑波大学産学連携会会員および企業等の方々に紹介することにより、研究成果の社会還元に貢献しようとするために毎年開催しているものです。

今回は、東日本大震災という未曾有の災害が発生したため「災害の総合講演会」と題し、境有紀教授(システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻)が「地震動による構造物被害と人命損失低減」、内山洋司教授(同リスク工学専攻)が「震災後の日本の発電所と電力供給」、村尾修准教授(同)が「震災後の都市復興と津波被害軽減策」および榮武二教授(人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻)が「生活者の視点からの放射線(原子力発電, 陽子線治療他)」の講演を行いました。震災直後ということもあり、多くの方が熱心に聞き入っていました。



山田信博学長の挨拶

「つくばエコシティ推進賞2010」表彰式開催

筑波大学つくば・地域連携推進室つくばエコシティ推進グループ(グループ長:井上勲教授(生命環境科学研究科 生物科学専攻))主催の「つくばエコシティ推進賞2010」表彰式が5月24日、開催されました。

この賞は、同グループが2008年度に設け、主に省エネ方策などを初めとする環境負荷低減、環境保全、環境教育、低炭素田園空間の創出など、「環境」をテーマとした取り組みで、特に顕著な功績があった者を毎年表彰するもので、本学における環境意識の向上およびつくばエコシティ構想の浸透・拡大に資することを目的としています。

応募のあった取り組みの中から、同グループ員の選考により11件の取り組みを選び、最優秀賞、優秀賞、シナジー賞、社会貢献賞及びグリーン賞を、また、同グループが行っている「エコステーション」でのリサイクル促進及び「エコドライブ」の推進に積極的に貢献した教職員と学生5人には「特別賞」を授与し、使用済み蛍光灯をリサイクルしたガラス製の楯を副賞として贈りました。



発表を行なった受賞者



副賞の廃蛍光灯を利用した楯

■ つくばエコシティ推進賞2010主な受賞者

最優秀賞

千葉親文准教授(生命環境科学研究科 生物科学専攻)
「井守も棲める谷津田・里山環境の復元および維持管理ネットワークの構築2010」

優秀賞

渡辺守環境マイスター委員会委員長(生命環境科学研究科 持続環境学専攻 教授)
「つくば市環境マイスター」

シナジー賞

つくべじ・アグリケーションプロジェクト
藤井さやか講師(システム情報工学研究科 社会システム・マネジメント専攻)
「生活困難地域と農業者をつなぐ産官学連携体制の構築と地域貢献事業の試験的実践」

社会貢献賞

上原拓也氏(生命環境科学研究科博士前期過程1年)
「つくバグ」



趣旨を説明する井上勲グループ長

第35回春季スポーツ・デー開催

筑波キャンパスで第35回春季スポーツ・デーが5月21日、22日に開催されました。

本学のスポーツ・デーは、学生組織「スポーツ・デー学生委員会」が企画から準備・運営までを行い、春と秋の年2回、各2日間の日程で開催しています。広大な敷地を持つ本学の充実した体育施設を利用して、学生・教職員であれば、誰もが楽しめるスポーツイベントとして、毎年延べ人数1万人以上と多くの参加者が集まり熱戦を繰り広げる、本学特有の大学行事です。

初日は晴天に恵まれ、降り注ぐ太陽のもと、スポーツを楽しみました。2日目は、午後からあいにくの雨となりましたが、前日の好天のお陰もあり、無事全ての競技を終了できました。



「きぼう」日本実験棟での芸術利用テーマに 逢坂卓郎教授提案が採用・実施される

独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA: Japan Aerospace Exploration Agency）の国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟において行う芸術利用テーマに、逢坂卓郎教授（人間総合科学研究科 芸術専攻）提案の「オーロラオーバル Spiral Top」が採用され、5月12日、13日の両日、実施されました。

逢坂教授の宇宙芸術の実験は今回で3回目ですが、2009年に続き多重螺旋の光跡を無重力空間に描く事を目的として臨み、光ファイバーを光源として、狙いどおりにオーロラのような模様を描くことが出来ました。

なお、このミッションは、Catherine Coleman 宇宙飛行士（米国）と、Nespoli Paolo 宇宙飛行士（イタリア）により行われました。

また、作品制作には、筑波大学の計算・構造工学研究室（磯部大吾郎准教授 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻）、村上史明助教（人間総合科学研究科 芸術専攻）及び研究基盤総合センター工作部門が協力しました。



青木彰記念講座「ジャーナリズムとメディアの現在」開設に対し 青木塾に感謝状を贈呈

本学で「青木彰記念講座：ジャーナリズムとメディアの現在」として開設している「青木塾（OB／OGで構成）」のコーディネーターに対して4月13日、山田信博学長から感謝状を贈呈しました。

青木塾は、産経新聞取締役編集局長、夕刊フジ社長を歴任した本学名誉教授である故青木彰氏が1978年に本学に着任後、学生を自宅に招き、時事問題を論じたり、記者時代のエピソードや自身の体験談などを語り、社会に巣立つ直前の学生たちに相互啓発の場を作ったのが始まりで、青木先生が定年退官された1990年までに、延べ200人を超える学生が



贈呈式後の記念撮影。左から原田氏、亀谷氏、山田学長、塚本氏、清水副学長、萩野特命教授

参加し、これらの学生はマスコミを中心に現在多方面で活躍しています。その後、意思を受け継いだ青木塾のメンバーにより同講座が開設され、多数の履修者がいる人気講座となり、学群教育に対して多大な貢献をされております。贈呈式には、本学からは、山田学長、清水一彦副学長（教育担当）および萩野祥三特命教授が出席し、青木塾からは、亀谷賢氏（（株）マグネット代表取締役、筑波大学客員教授、1990年国際総合学類卒）、原田亮介氏（日本経済新聞編集局総務、筑波大学非常勤講師、1981年比較文化学類卒業）および塚本幹夫氏（フジテレビジョンクリエイティブ事業局 | T戦略担当局長、筑波大学非常勤講師、1981年社会学類卒）が出席されました。

平成23年度筑波大学学群・大学院合同入学式

平成23年度筑波大学学群・大学院合同入学式が4月20日午前11時40分から行われました。

今年度は、東日本大震災の影響により、当初開催予定日の7日を20日に延期し、例年使用している本学学生会館講堂も長期間使用不可能であることから、緊急時の屋外避難場所の一つである本学陸上競技場に場所を移しての開催となりましたが、晴天のもと、新入生、保護者の方を含め約3,500人も参加者がありました。



山田信博学長は、式辞で今回の東日本大震災に触れ、「この国難にあたり、若い時代にこそ敏感にわが国の抱える問題の本質を見抜き、正面から問題解決に向けて、筑波大生は人一倍学び、自身を鍛え、グローバル人材へと成長することを期待している」と、力強いメッセージを新入生に送りました。

続いて役職教員の紹介を行い、最後に、新入生を歓迎して「筑波大学メッセージソング『IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え』が、プロの歌手と学生・職員有志によるコーラスグループにより披露され、親しみやすいそのメロディーに、口ずさむ新入生も多く見受けられました。



交流

4月22日(金) 救援物資の提供

来訪者：タイ王国 大使館公使参事官一行
目的：タイ人留学生への救援物資の配付のため



5月13日(金) 学長表敬

来訪者：ドイツ連邦共和国 在日大使一行
目的：日独交流150周年公開講演会出席のため



6月1日(水) 学長表敬

来訪者：サウジアラビア王国 アル・ジョウフ大学長一行
目的：生命環境科学研究科との交流に関する覚書締結のため



受賞

●主な受賞等一覧

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
日本臨床試験研究会第2回学術集会総会優秀演題賞	橋本幸一 准教授 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 次世代医療研究開発・教育統合センター)	_____
日本体育測定評価学会第10回大会優秀発表賞	中田由夫 助教 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 次世代医療研究開発・教育統合センター)	_____
日本農芸化学会2011年度大会トピックス賞	臼井健郎 准教授(生命環境科学研究科 生物機能科学専攻)	_____
	知念 拓実 (生物環境科学研究科 生物資源科学専攻 博士前期課程1年) 太田 優(生命環境学群 生物学類 4年)	臼井健郎 准教授 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻)
平成23年度科学技術分野の 文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)	赤阪健 教授 (数理物質科学研究科 化学専攻 生命領域学際研究センター)	_____
	岩田洋夫 教授 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻)	_____
日本農芸化学会2011年度農芸化学奨励賞	丹羽隆介 助教(生命環境科学研究科 生物科学専攻)	_____
平成23年度日本食品衛生学会奨励賞	小口大一 助教 (生命環境科学研究科 生命産業科学専攻 遺伝子実験センター)	_____
第5回立命館白川静記念東洋文字文化賞教育普及賞	森岡隆 教授(人間総合科学研究科 芸術専攻)	_____
平成23年度日本不動産学会学会賞(論説賞)	谷口守 教授(システム情報工学研究科 社会システム・マネジメント専攻)	_____
第5回経済地理学会著作賞	湯澤規子 助教(生命環境科学研究科 国際地縁技術開発科学専攻)	_____
日本地下水学会論文賞(2011年春季講演会)	田瀬則雄 教授(生命環境科学研究科 持続環境学専攻)	_____
The 12th International Conference on Information Integration and Web-based Applications & Services Best Parer Award	大澤 昇平 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士前期課程1年)	北川博之 教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 計算科学研究センター) 天笠俊之 准教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 計算科学研究センター)
第3回データ工学と情報マネジメントに関する フォーラム最優秀インタラクティブ賞	塩川 浩昭 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士前期課程2年)	北川博之 教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 計算科学研究センター)
		川島英之 講師 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 計算科学研究センター)
一般社団法人情報処理学会平成22年度山下記念研究賞	駒水 孝裕 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士前期課程2年)	北川博之 教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 計算科学研究センター)
情報処理学会第73回全国大会学生奨励賞	駒水 孝裕 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士前期課程2年) 富山 克裕 (情報学群情報科学類4年)	天笠俊之 准教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 計算科学研究センター)
		川島英之 講師 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 計算科学研究センター)
第5回日本統計学会春季集会学生優秀発表賞	小林 裕子(数理物質科学研究科 数学専攻 博士前期課程2年)	青嶋誠 教授(数理物質科学研究科 数学専攻)
2010年度自動車技術会関東支部 学術研究講演会ベストペーパー賞	片桐 正明 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士前期課程2年)	稲垣敏之 教授 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻)
		伊藤誠 准教授 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻)
The 3rd International Symposium on Interdisciplinary Materials Science Excellent Poster Award	佐藤 良太 (数理物質科学研究科 化学専攻 博士後期課程3年) 吉永 泰三 (数理物質科学研究科 化学専攻 博士後期課程2年)	寺西利治 教授 (数理物質科学研究科 化学専攻)
2010年度社団法人自動車技術会大学院研究奨励賞	堀米 辰弥 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士前期課程2年)	稲垣敏之 教授 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻)
		伊藤誠 准教授 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻)
2010年度日本農業史学会賞奨励賞	阿部 希望 (生命環境科学研究科 国際地縁技術開発科学専攻 博士後期課程2年)	加藤衛弘 教授 (生命環境科学研究科 国際地縁技術開発科学専攻)
第46回東京都公園協会賞奨励賞(論文部門)	小松 広明 (ビジネス科学研究科 企業科学専攻 博士後期課程3年)	白田佳子 教授 (ビジネス科学研究科 国際経営プロフェッショナル専攻)
第12回AI若手の集い(MYCOM2011) 優秀プレゼンテーション賞	重田 桂誓 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 博士前期課程2年)	宇陀則彦 准教授 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻)
		松村 敦 助教 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻)
優秀ディスカッション賞	常川真央 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 博士前期課程1年)	_____
2010年度日本太陽エネルギー学会奨励賞(学生部門)	尾羽 秀晃 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士前期課程2年)	岡島敬一 講師 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻)
公益財団法人国際理解支援協会「留学生が先生！」 教育プログラムへの貢献における最優秀講師表彰	ムラツト チャクル (人間総合科学研究科 教育基礎学専攻 博士後期課程2年)	濱田博文 教授 (人間総合科学研究科 教育学専攻)
平成23年度繊維学会若手優秀ポスター賞	川畑 公輔 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士後期課程2年)	後藤博正 准教授 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻)

※所属、職名、学年は受賞年時

羽ばたく OB&OG



しん きくち 伸さん

フジテレビ「音組」プロデューサー

プロフィール

1962年 岩手県生まれ
1985年 筑波大学卒業後、フジテレビジョン入社
『夜のヒットスタジオ』のADとなる
1994年 『HEY!HEY!HEY!MUSIC CHAMP』を立ち上げる
2002年 『音組』を立ち上げ、『FACTORY』『僕らの音楽』
『堂本兄弟』『MUSIC FAIR』
『FNS歌謡祭』等
生演奏の音楽番組を数多くプロデュース



フジテレビ音楽番組制作スタッフ「音組」
を率いる音楽番組プロデューサー・きくち
伸さん(人文学類・85年卒)に、学生時代の
思い出や、TVプロデューサーに求められる
資質などについて、お話を伺いました。

一本学・人文学類でのご専攻と選んだ理由を教えてください。

フランス革命や、パリ・コミューンなど、自由のための解放運動に関心があったので、ヨーロッパ史を専攻しました。基本的に反体制派なのです。野球も、小さいころから阪神ファンで、学生時代には、『筑波大学阪神タイガースファンクラブ 優虎団』というサークルを作りました。そのサークル活動が学生生活の中心でしたね。

一どのような活動をされていたのですか？

球場までよく応援に行きました。2・3年生の時は、神宮、横浜、後楽園球場で開催された阪神タイガースの試合は全て行きました。それから、ソフトボールで“プロ野球ごっこ”をやっていました。試合数をこなして、個人成績を集計して、新聞を作って。毎週土日にトリプルヘッターをしたりして、在学中に253試合やりました。とても楽しかったですね。

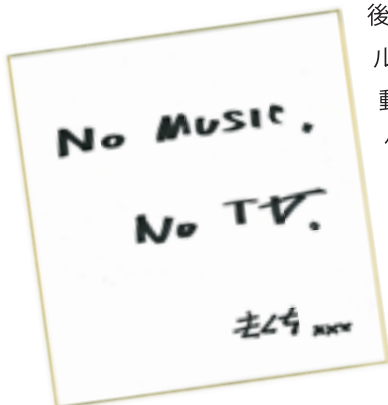
後輩が1人、真面目に文化系サークル連合会の会議に出たら、活動経歴が認められて、課外活動団体に昇格して。課外活動団体だと、予算が出るじゃないですか。国立大学ですから、たぶん、国から予算をもらっていた、日本で、唯一のタイガースファンクラブだと思います。

一音楽系の活動をされていたのではないかと感じていました

音楽はずっと好きでしたし、自分で曲も作っていました。『優虎団』でバンドもやっていました。入学当初は、音楽のサークルにも入ったのですが、『優虎団』で、何でもやるようになって、最後はそこに収束したかんじです。面白そうなことを、面白がってやっていて…あの時のバカバカしさとか、執拗さとか、今につながっていると思います。今も、なるべく、自分の中でバカバカしいと思うような面白いことを、徹底して作りこんでいます。あの時やっていたままの生き方を今もして、今はそれを仕事にしている、というのは、幸せなことだと思いますね。

一学生時代から、テレビ局に就職したいと考えていたのですか？

マスコミ志望でしたが、活字メディアの仕事をしたと考えていました。子供に夢を与える仕事がしたくて、小学館の学年別学習雑誌の編集者になりたかったのです。小学館の漫画も好きでしたし…。当時、友人に誘われて、産経新聞出身の青木彰先生(故人)が主催していた、『青木塾』というマスコミ志望者向けの私塾に参加しました。そこに参加していた学生は、皆、フジサンケイグループの「マスコミ志望者のためのセミナー」を受けたのですが、そこは青田買いの場だったのです。模擬面接を受けたら、フジテレビから電話がありまして、そのあと2度面接を受けて、早々に内定をも



りました。小学館の入社試験まで1カ月以上もあったので、気持ちを持たず、そのままフジテレビへ入社しました。

一大変な難関だったと思いますが？

フジテレビに入れたのは、筑波大生だったということが大きかったかも。私大と比べて学生数が少ないので、模擬面接では、筑波大だということだけで、一緒に模擬面接を受けた早稲田と慶応の学生より、なんか目立ってました。

一社会人としてのスタートはどのような感じでしたか？

最初の配属から制作で、AD(アシスタント・ディレクター)として『夜のヒットスタジオデラックス』に配属されました。その班のお仕事は、すごく厳しいことで知られていたのに、それを知らずに希望した私。実際、とても大変なところで、挨拶に行ったその日から、10日間家に帰れませんでした。寝ないのが当たり前、食べないのが当たり前の世界。辛かったけれど、その時代があるから今があると思います。

一今では、フジテレビのエース音楽プロデューサーとして活躍されていますが、挫折を感じたことはあるのでしょうか？

私は、プロデューサーには向いているかもしれませんが、ディレクターには向いてませんでした。音楽番組のディレクターは、映像の構築能力がないとだめなのです。上司に、「おまえはディレクターとして失格だから、今日から俺のAP(アシスタント・プロデューサー)だ」と言われた時は、ディレクターを諦めたくなかったから泣きました。でも、その言葉が今につながっているから、今は、その人にすごく感謝しています。

一震災後、すぐに、特別番組、「FNS音楽特別番組 上を向いて歩こう〜うたでひとつになろう日本〜」を制作されました

震災で、世界フィギュアスケート選手権の東京開催・中継が中止になったために空いた枠でやった、3時間の生放送番組です。ブログにも書いたのですが、「音楽は素晴らしい、



MUSIC FAIR

音楽家でない私はそれを上手に、素直に届けたい」という気持ちでやりました。避難所に居て、テレビが見られない人のために、ラジオでも同時に放送しました。被災地周辺では、系列の違うラジオ局までが、時差で深夜に放送してくれて…。わずか10日の準備期間でしたが、スタッフやラジオ局の方々、出演してくれた27組のアーティストなど、みんなの心がひとつになって、いい番組ができました。生放送中に、視聴者から2638通ものメールが届き、個人的にも、泣いたよってたくさんメールをもらって、自分にやれることがあってよかった、と感じました。

一音楽プロデューサー志望の学生に一言お願いします。

音楽に限らず、テレビの制作者というのは、ミーハーであるべきだと思いますね。好奇心が旺盛というのが一番大事です。私は、人見知りで内向的ですが、ミーハーでポジティブ。好きなものに対する好きという情熱はすごく強いし、「自分が好きと思えば、相手も好きと思う」って考えます。肉体的にも精神的にも厳しい仕事ですが、なんだか体は丈夫みたいで、つらいことも一晩寝ると忘れるといった楽天的なところも、この仕事に向いているのかもしれない。

一学生時代にやっておくべきことはありますか？

立場上、学生さんの面接をたくさんしますが、「どこどこのサークルを仕切っていた」というような話をよく聞きます。セールストークなのでしょうが、仕切るというのは、セールスポイントではないかも。大切なのは、自分が何をどう楽しんだか。学生時代には時間がある。就職してから、学生時代の時間は貴重だったなあ、としみじみ思いました。たくさんある時間を使って、いろいろなことを楽しんで欲しいです。

一最後に、本学に向けてのメッセージをお願いします。

私は今も、学園祭の準備みたいな毎日を送っています。毎日がそんなふうだった、慌ただしくもゆるゆるで、毎日が楽しかった筑波大学、ありがとう。私の今は、筑波大学のおかげです。



僕らの音楽



リレー エッセイ

学生部学生生活課

小林 奈美子さん



娘とは、2週間に1回くらいで、地元の市立図書館に行きます。娘の現在の愛読書は、小学生の間で人気が高いと聞いている「かいけつゾロリシリーズ」。毎回3冊借りてきて、その日のうちに読んでしまうのですが、2週間の間に何度でも読み返します。その集中力もなかなかのもので、その時だけ、家の中は平和です。そろそろ図書館にある「ゾロリ」は読んでしまったのではないかと思います、私が子供の頃によく読んでいたシリーズを薦めてみましたが、「私にはまだ早いみたい」と言われました。今後も娘の興味の赴くままに、いろんな本を読んで欲しいと思います。

次回は、病院総務部経営企画室の新田智弘さんです。「採用の頃から何かとお世話になっているので、今回もお世話になることにしました」

生命環境科学等支援室

秋葉 美代江さん



ミッフィーちゃんに、小学生の時ひとめ惚れしました。いつも私の愚痴を聞いてくれて、本当にありがとうね。え?随分とストレスが溜ってる様だっけ? そうなの、分かる?

え?そういう時は、大好きな漫画を読めって?そ~だよね!やっぱり漫画だよね!『ジョジョの奇妙な冒険』も第8部開始したしね。『よんですまよ、アザゼルさん。』も面白いよね。とにかく、漫画は一生読んでいくよ。私の現在の夢は、ミッフィーちゃん柄の骨壺を作ること。これさえ作って置けば、何時逝っても大丈夫。心おきなく逝ける。欲しいな~。デルフト焼きで(^_^)♪ それまで、一緒に居てね。よろしく♡

次回は、数理物質科学等支援室の草野富美江さんです。「戦隊モノ大好きな、正義感の強いステキな女性です。彼女の拘りは凄いです。草野ワールドを堪能して下さい」

体育センター

長瀬 寿子さん



十数年続けているスキーも、季節限定な事と家庭環境の変化も加わり、今となっては激減の一途…。

そんな中、“できないと決めたのは誰?”のフレーズにひかれ、運動が苦手な子達を連れ立ち参加したビーチボールバレーの体験会。

ビーチボールを使い、バドミントンコートで行う4人制の体育館競技に、友人からは、“それって、水着?”と問われ、焦る事もしばしば…(汗)。空気抵抗があるビニール製のボールが、相手コートに吸い込まれるように落ちていくスパイクはまさに感動もので(まだまだ程遠い…)、予想に反して続くラリーに、学生時代の再来?と、かなりの勘違いはしばらく続きそうです(笑)。

次回は、人間総合科学研究科 生命システム医学専攻 助教の吉野 聡さんです。「附属学校と東京キャンパスの頼もしい産業医です。とても楽しく仕事をさせていただきました」

総務部

竹之内 勝典さん



昨年、13年振りに文化庁から筑波大学に戻りました。昔と変わらないキャンパスと同僚の茨城弁に感動しました。そう、私は感動が大好きです。スポーツ観戦や芸術鑑賞では、生で見る感動に拘っています。特に、2002 FIFAワールドカップ決勝戦では、ジーコが目の前で観戦していて感動も倍増でした。

最近の感動の源は、1歳半の息子・晴斗(はると)です。散歩の際に、小さな歩幅が生み出すスローな時間が何とも言えません。昨日は乾杯!今日は象の鳴き声を覚えました。明日は、この小さな口からどんな感動の言葉が聞けるのか、楽しみは尽きません。

次回は教育推進部教育推進課の関瑞穂さんです。「採用時の最初の上司で、仕事に対する鋭い視点は当時から先輩職員のお手本でした。あれから20年、今も変わらず目標としている先輩です。」

学生部学生生活課
高橋 義宏さん



運動することが好き、特に若い時から何故か球を扱うスポーツ等が多いですね。排球、棒球、卓球、ゴルフ、鉄球?など。歳とともに運動する機会も少なくなりました。現在も継続しているものは、ソフトボール、ゴルフ、鉄球?、スキーです。

自分にとっての生涯スポーツは何か、と問われると、スキーと答えるでしょう。一昨シーズンまで孫を背負って滑るのが楽しみでした。還暦を迎え体力の衰えが顕著にあらわれ、今では無理になりましたが、スキーは楽しいですよ。

皆さん、スキーに行くなら、本学の石打研修所をご利用ください。安価でゲレンデまで歩いて10分、是非、是非。

次回は、医学系技術室の阿部まゆみさんです。「阿部さんは、多趣味で日々エンジョイされている方です。今度、皆集まって飲もう!」

施設部施設整備課
西川 喜一郎さん



採用2年目、同じ係に後輩も入り、すでに新人ではなくなっている自分に、今更になって驚いている今日この頃。そんな私は黙々とオーケストラで楽器を弾き、飼犬をからかって休日を過ごし、暇があれば一人旅をしつづけて過ごすのが趣味です。同期でもあまり楽器を趣味にしている人がいないのですが、年齢もバラバラで色々な趣味を持った人達と一緒に過ごすというのは、働き始めてから初めて経験する事で、なかなか楽しいです。

施設部は若干本部から離れている事もあり、最近では少し遠くに足を伸ばし、色々な学食や、外の店に昼食を食べにくい事にもはまっています。普段は東京から通勤しており、まだまだつくばは知らない事だらけなので、美味しいお店や、意外な穴場を知っている方は是非ご一報下さい!

次回は、施設部施設整備課の丹羽樹乃さんです。「すでに主任級の賞禄を兼ね備え「え?採用1年目の?」と誰もがツッコミを入れたいになってしまうような丹羽さんは、お酒が似合う姉御肌です」

人間総合科学研究科
生命システム医学専攻
講師

三輪 佳宏さん



今は、研究と大学の仕事だけで本当に手一杯。なので趣味のことは書けません(笑)が、せめて仕事のスタイルは変革しようと「クラウドコンピューティング(仕事にパソコンを選ばない)」と「ノマドワーキング(仕事の場所と時間を選ばない)」に挑戦中です。したがってペーパーレスにも移行中。それを支えてくれる最強ツールは、もちろんiPad! でも大学の事務が完全電子化してくれないことには、せつかくの威力も半減なんですよね～。ふう～。

次回は、人間総合科学研究科 芸術専攻 准教授 田中佐代子さんです。「科学を多くの人にわかりやすく伝えるための“サイエンスビジュアライゼーション”の活動で大活躍の田中先生。これからもよろしく願います!」

医療科教員養成施設
神田 聖子さん



5月21日スポーツ・デーはフロアバレーをして、汗を流しました。フロアバレーは視覚障害者版バレーボールです。バレーボールとの違いは、ネットは床からボールが通るくらいの高さで、サーブもスパイクもボールはすべて床を転がします。前衛3名はアイマスクを使用し、膝を曲げ、しゃがんだ姿勢でネットを挟んだ敵のスパイクをブロックし、スパイクを打つのです。前衛のラリーの応酬は見応えがあります。初めてフロアバレーを見た時、なんて怖いスポーツだ!と思いました。今年は我がチームも優勝できる?と途中まで期待を抱いたのですが、残念ながら2位でした。

次回は、人間総合科学研究科准教授(医療科教員養成施設)の宮本俊和さんです。「初めて食べるランチのお店(=少し勇気が必要な雰囲気のお店)には一緒に行ってください心強い方です」



本学同窓会組織の茗溪会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

【茗溪会とは】 社団法人茗溪会(西野虎之介理事長)は、筑波大学同窓会を母体とする公益法人で、1882年に設立しました。同会は、筑波大学およびその前身諸学校(東京教育大学、東京文理科大学、東京高等師範学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、図書館情報大学など)の卒業生により組織されており、現在の会員数約5万4000人を数え、その6割以上が筑波大学卒業生となっています。

茗溪学園生徒が大学で研究発表会



高校生による発表



大学の先生からの助言

茗溪学園高等学校は、2月8日筑波大学大学会館で、個人課題研究発表会を、筑波大学の先生方の指導のもとに開催しました。高校2年の生徒全員が取り組む個人課題研究のうちから、校内発表会を経て選ばれた研究を発表する場となっています。発表会は、社会法学関連、諸科学総合関連、生物学獣医

学関連、人文学関連、理工学関連、芸術学経済学関連、医学関連の合計7分野に別れ、それぞれに5人の生徒が発表しました。各分野ごとに座長として大学側から7名の先生方に参加していただき、生徒たちの研究をより深めるための助言をいただきました。総合指導として副学長・清水一彦先生から、研究および発表のための「十の心得」のお話をいただいたことが印象に残りました。



発表会には多数の保護者も参加

卒業生に茗溪会筑波大学支部賞を授与

本学の教職員からなる茗溪会筑波大学支部では、母校筑波大学を支援するための事業の一環として、「茗溪会筑波大学支部賞」を設立し、各学類等から1名の「クラス代表等をおして学生や大学のために顕著な活動を行った卒業生」を顕彰しました。各学類等から推薦された以下の平成22年度卒業生に、表彰状および副賞が授与されました。クラス代表等の学生生活は本学が他に誇れる特徴の1つであり、学生生活や大学運営にとって重要な位置を占めています。この学生生活は茗溪会の趣旨とも合致していることから、本賞が創設されました。受賞者は次のとおり。

夕田 哲也(心理学類)、高村 友里恵(障害科学類)、石川 翔一(生物学類)、黒丸 真理子(生物資源学類)、阿部 紫織(地球学類)、田沼 秀紀(数学類)、土井畑 幸一郎(物理学類)、片岡 佳代子(化学類)、志水 まどか(応用理工学類)、近藤 靖雄(工学システム学類)、藤田 悠希(情報科学類)、三津石 智巳(知識情報・図書館学類)、佐藤 葵(医療科学類)、伊藤 森太郎(体育専門学群)、安生 成美(芸術専門学群)、篠澤 正樹(理療科教員養成施設)



表彰状を手にする受賞者の一人と佐藤忍支部長

「やどかり祭」盛大に前夜祭 本祭は雨で中止

学生宿舎の学生による第37回宿舎祭「やどかり祭」は、5月27日(金)に前夜祭が行われました。小雨をについて行われた前夜祭は、メインステージでの演奏や縁日、大演芸会が行われ、フィナーレでは、実行委員会の学生たちによる和太鼓演奏で大きく盛り上がったところで、大がかりな火文字が点火され、祭りのテーマ字である「和」が暗闇に燃え上がるという、最高の演出で終了しました。たくさんの学生たちが参加した前夜祭でしたが、あいにくの2日続きの雨天のため、本祭は中止せざるを得ず、学長のご出席も予定されていたオープニングセレモニーや、御輿パレード、ゆかたコンテストなど全ての催しをあきらめざるを得ませんでした。

なお、宿舎祭運営資金は、茗溪会からの寄付金のほか、紫峰会、近隣の商店や会社等330にのぼる団体からの支援金によって賄われています。



小雨をについて和太鼓の演奏



「和」の火文字



本学の父母会組織である紫峰会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

【紫峰会とは】 紫峰会は、筑波大学生の課外活動などを支援するために1977年に設立された学生後援会です。主な事業は課外活動助成事業（援助金の支給など）、学生生活支援事業（緊急貸付金、コピーサービスなど）、広報・普及事業（紫峰会報の発行、UTcollectionの制作・販売など）です。学生の保護者、卒業生とそのご父母の方、教職員など約1万人が入会しています。このコーナーでは、紫峰会が行っている様々な活動を紹介していきます。

■財政支援事業～課外活動団体援助金～

紫峰会の財政支援事業では、筑波大学における課外活動団体（文サ連、芸サ連、体育会：以下三系）、学生団体、および学園祭やスポーツ・デーなどの学内行事に対して助成金を支給しています。その中で、課外活動団体援助金（以下団体援助金）は、総額が1,600万円と最も大きな割合を占めており、今年度も5～6月に各団体に支給しました。

紫峰会の原点ともいえる団体援助金ですが、その支給基準作りは、紫峰会設立直後より検討が始まりました。学生担当教官室（現在の学生生活支援室）の先生方の指導の下、当時の代表者たちが徹夜で作成した資料を各系が持ち寄り、激論を交わす中で以下のような枠組みが作られました。

- ① 過去1年間の活動費実績に対する援助である。
- ② 紫峰会の援助金予算額を受けて三系の自主的な折衝により系別配分額案を作る。
- ③ 三系がそれぞれ援助金配分の内規を作り各所属団体への援助額を決定する。
- ④ 各系の財務局長が各団体の会計状況を調査する。

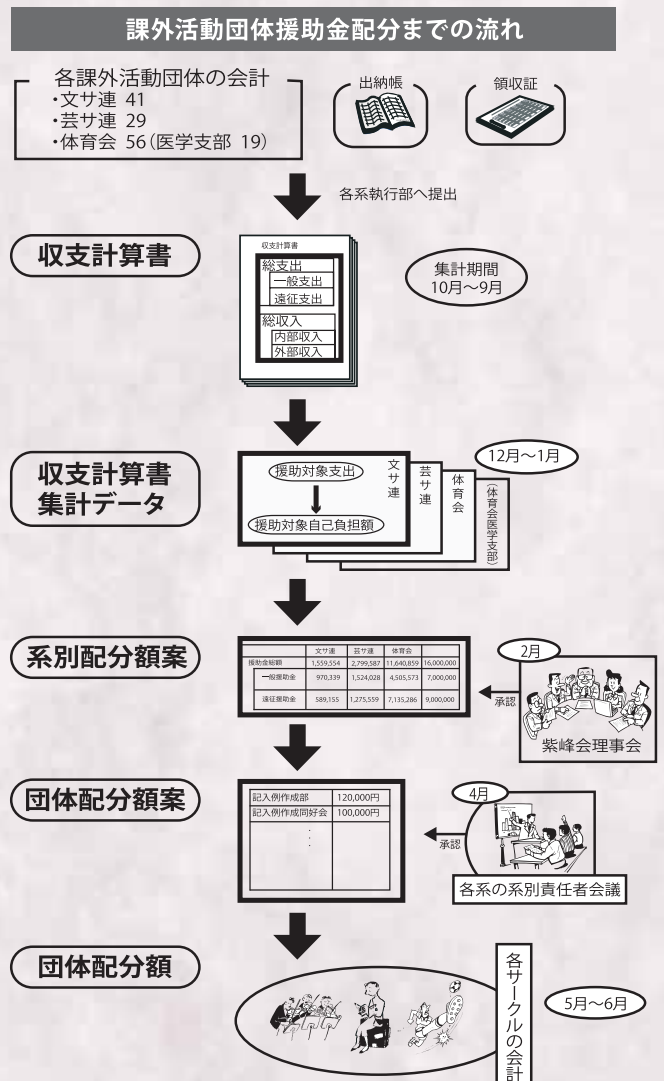
紫峰会援助金支給の基本方針である「学生の自主折衝」という考え方はこの基準作りの中で生まれ、その精神は現在も脈々と受け継がれています。

■団体援助金支給までの流れ

課外活動団体は、定期報告として月ごとあるいは一定期間ごとに「収支計算書」を所属する系の財務局に提出す

ることが義務づけられています。各系財務局はそれらを査定し、援助金申請のための基礎資料を作成します。これらを1年間分（10月～9月）集計して持ち寄り、学生財務会議において折衝を行い、1月頃に系別配分額案が作成されます。2月の紫峰会理事会で承認された後、各団体への配分額は、それぞれの系の内規に基づいて系別責任者会議で決定され、5～6月ごろに各団体の会計へ支給されます。

団体援助金はこのようにして、団体間で不公平の無いように、かつ自己負担が大きい団体にはより多く支援できるように、学生自身によって長年議論され、発展してきました。こうして支給された援助金は各団体の運営資金として役立てられています。



順位	サークル名	支給額	順位	サークル名	支給額
1	水泳部	1,102,403	21	男子ハンドボール部	205,630
2	硬式野球部	1,058,579	22	海洋研究会	201,141
3	医学硬式庭球部	567,923	23	体操競技部	199,433
4	医学アイスホッケー部	535,152	24	医学ソフトテニス部	192,486
5	管弦楽団	516,115	25	アメリカンフットボール部	184,572
6	舞踏研究会	511,220	26	医学ラグビー部	174,977
7	蹴球部	439,666	27	女子ハンドボール部	165,563
8	バドミントン同好会	414,226	28	バドミントン部	151,089
9	医学バドミントン部	303,130	29	医学スキー部	147,684
10	ラグビー部	294,850	30	合気道部	146,491
11	混声合唱団	288,435	31	フェアリースキークラブ	146,357
12	医学サッカー部	275,954	32	サッカー同好会	140,257
13	E.L.L.(筑波軽音楽協会)	263,262	33	医学ヨット部	136,325
14	女子サッカー部	261,268	34	弓道部	135,548
15	女子バスケットボール部	240,472	35	トライアスロン部	131,830
16	男子バスケットボール部	238,924	36	吹奏楽団	128,249
17	男子アイスホッケー部	236,876	37	歌留多部	127,563
18	津軽三味線倶楽部無絃塾	221,811	38	女子アイスホッケー部	125,555
19	陸上競技部	219,431	39	男子バレーボール部	125,259
20	卓球部	209,020	40	柔道部	122,711

平成22年度紫峰会課外活動団体援助金1600万円は、平成23年5～6月に、三系所属のすべての団体に支給されました。

本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧(4月～6月)

● 新聞記事一覧

	記事	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	本学と東京・文京区 案内標識を統一 災害時、情報伝達にも活用	西川潔副学長 山本早里准教授(人間総合科学研究科)	日刊工業(4.1)
2	震災後の子どもの不安定な言動、甘え・わがまま・夜泣き・登園拒否…「安心感与えて」徳田克己教授	徳田克己教授(人間総合科学研究科)	朝日(4.2)
3	柔道・アジア選手権 日本勢が4階級制す 男子66kg級・森下純平、女子57kg級・佐藤愛子ら優勝 男子90kg級・西山大希は準優勝	森下純平(体専3年) 佐藤愛子(OG、了徳寺学園) 西山大希(体専3年)	朝日(4.7) 産経(4.7) 毎日(4.8)
4	本学・東京医大・小沢眼科が被災地支援へ連携	附属病院	茨城(4.14)
5	▽子ども新景 体動かす音楽授業 ノリノリで曲の構造理解	附属小学校 高倉弘光教諭(附属小学校) 藤波重紀(附属小6年) 俣野有美(附属小6年)	日経「プラス1」(4.16)
6	本学入学式 会場被災で屋外開催 3500人出席 授業の合間に典執行われる	山田信博学長	朝日(4.21) 毎日(4.21) 読売(4.21) 産経(4.21) 東京(4.21) 茨城(4.21) 常陽(4.21)
7	世界で活躍するグローバル人材育成 企業役員や官僚ら招き、本学でリレー 講義		茨城(4.22)
8	病院や施設にロボット出動態勢 実用化へ向け、ニーズと合体	サイバーデザイン 山海嘉之教授(システム情報工学研究科)	日経(4.21夕)
9	▽茨城論壇 中身問われる大学改革 努力を怠っている大学は、大学自身の存廃へとつながっていく	清水一彦副学長	茨城(4.23)
10	本学と土浦市との包括協定 大学との効果的な協力体制を構築	山田信博学長	常陽(4.25)
11	ICT医療フォーラム「遠隔医療の更なる普及に向けて」	久野譜也教授(人間総合科学研究科)	日経(4.25)
12	長時間運動後、急激に脳グリコーゲン低下 予防運動やサプリ開発に期待 本学・征矢教授らの研究チームが解明	征矢英昭教授(人間総合科学研究科)	茨城(4.28) 毎日(4.28夕) 毎日(4.29) 常陽(5.9)
13	再発前立腺がんの細胞増殖、乳がん治療薬が抑制 本学と東京大の研究チームが突き止める	柳澤純教授(生命環境科学研究科)	毎日(4.28)
14	ひたちなか総合病院、本学と拠点開所 地域の医師不足解消と医療充実が主な目的	山田信博学長 附属病院	茨城(4.28)
15	県陶芸美術館、本学と連携し企画展 「石井コレクション 東洋陶磁の華 一明・清・朝鮮・有田を中心に」	芸術専門学群 陶磁研究室 寺門臨太郎准教授(人間総合科学研究科) 土井雅也(人間総合科学研究科2年) 高橋翔(芸術専門学群4年)	茨城(4.28) 読売(4.29) 産経(5.7) 茨城(5.15)
16	本学の震災による被害総額70億円 世界最先端設備も大破	山田信博学長 研究基盤総合センター 遺伝子実験センター 生命環境科学研究科 数理物質科学研究科 総合体育館 体育・芸術図書館 附属図書館 大学会館	朝日(4.29) 毎日(4.29) 茨城(4.29) 常陽(4.29) 東京(5.7) 茨城(5.8)
17	第85回国展、彫刻部門新人賞に本学院生・渡部直さん	渡部直(人間総合科学研究科博士前期課程2年)	常陽(4.30) 常陽(5.20)
18	本学附属病院など3団体、義援金100万円寄託	五十嵐徹也附属病院長 白川洋子附属病院副院長・看護部長 安田真(救急・集中治療部講師)	茨城(5.3)
19	▽環境 遺伝子組み換え植物野外試験、手続き簡略化承認へ	渡邊和男教授(生命環境科学研究科)	朝日(5.11夕)
20	仮想空間で起伏を体感できる箱型ロボットを開発	岩田洋夫教授(システム情報工学研究科)	日本経済(5.16)
21	本学で、日独交流150年を記念し、フォルカー・シュタンツェル 駐日ドイツ大使の講演会を開催	大学会館	茨城(5.18)
22	筑波学院大と本学の学生が、東日本震災の被災地での活動を報告。 それぞれの大学で、被災地を支援するボランティア団体を発足し、今後連携プレーで 支援活動を継続することを発表(本学被災支援団体名:Tsukuba For 3.11)	鴨川一也(生命環境科学研究科博士前期課程2年) Tsukuba For 3.11(被災支援団体)	毎日(5.18) 常陽(5.18) 産経(5.19) 茨城(5.25) 朝日(5.27)
23	「ポップアップカード」をパソコンを使って簡単に 作成できるツールを開発	三谷純准教授(システム情報工学研究科) 飯塚里志(システム情報工学研究科博士前期課程2年)	日刊工業(5.26)
24	本学附属病院と、筑波メディカルセンターの災害派遣 医療チームに、北茨城市が感謝状	附属病院 五十嵐徹也附属病院長 災害派遣医療チームDMAT	朝日(5.27) 毎日(5.27) 茨城(5.27) 常陽(5.27) 産経(5.28) 東京(6.1)
25	本学と来福酒造(筑西市)は、同大ブランドの日本酒第2弾「純米大吟醸 桐の華」を醸造し、販売を開始。酵母は、内山裕夫教授の研究室で、 学生が桐の花から酒造りに適した酵母株を採取。ラベルの文字は、 中村伸夫教授による隷書。瓶のデザインは、原忠信講師 720円(税別)3990円。大学会館紫峰会売店で500本限定販売	内山裕夫教授(生命環境科学研究科) 中村伸夫教授(人間総合科学研究科) 原忠信講師(人間総合科学研究科) 大学会館紫峰会売店	毎日(5.29) 読売(5.29) 東京(5.29) 茨城(5.28) 常陽(5.31) 日刊工業(6.8) 朝日(6.10)
26	柔道のグランドスラム・モスクワ大会で、 女子78kg級 緒方亜香里 優勝。男子90kg級 西山大希 準優勝	緒方亜香里(体専3年) 西山大希(体専3年)	毎日(5.30)夕 読売(5.30)夕 産経(5.31)
27	本学附属病院は、高度画像診断施設の 建設・運営契約を医療法人社団「豊智会」と締結。	附属病院 五十嵐徹也附属病院長	毎日(6.11) 日本経済(6.11) 常陽(6.12) 茨城(6.11)
28	本学が、福島県と首都圏東部の土壌汚染地図を作製。 茨城県南部や千葉県北西部の一帯のセシウム、管理区域並み	末木啓介准教授 (アイソトープ総合センター)	東京(6.14)
29	本学 梅村雅之教授らが、模擬計算で、ブラックホール巨大化複合体説を立証	梅村雅之教授(数理物質科学研究科)	日本経済(6.14)
30	陸上・日本選手権 戸邊直人 男子走り高跳び 優勝 高橋亜弓 円盤投げ 2位	陸上部 戸邊直人(体専2年) 高橋亜弓(体専4年)	朝日(6.13) 毎日(6.14)

● テレビ放送一覧

	内容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	藻から石油を!エネルギー革命で日本を産油国に!	渡邊信教授(生命環境科学研究科 生命共存科学専攻)	TBS:夢の扉+(5.29)
2	放射線「ホットスポット」	末木啓介准教授 (数理物質科学研究科 化学専攻 アイソトープ総合センター)	テレビ朝日:報道ステーション(6.16) 他 各局多数

イベントカレンダー (7月～9月)

7月

- 1日(金) ベトナム留学生交流会(春日プラザ)
- 3日(日) ビジネス科学研究科法専攻(法科大学院)オープンキャンパス
- 5日(火) 夏季休業(～8/31)
筑波大学日本画作品展～移動学園祭～
(於:野沢温泉村「おぼろ月夜の館」(8/21まで))
- 6日(水) 大学院入試「推薦」
海外拠点フェア(総合交流会館)
- 7日(木) 入学試験「2学期推薦／編入(～8)」
- 10日(日) 市民講座「基礎からわかる地震・津波・放射能～良く知り正しく怖がる～」
(於つくば国際会議場)
- 14日(木) 合格発表「2学期推薦／編入」
- 23日(土) 人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻入試
受験生のための大学説明会
(7/24、30～31、8/27)
- 25日(月) 第1学期末卒業式、大学院学位記授与式
- 26日(火) 人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻入試
平成23年度学校図書館司書教諭講習(～8/10)
- 30日(土) ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻学位記授与式
- 31日(日) 物理チャレンジ2011(～8/3)

8月

- 2日(火) 入学試験「編入学(知識)」(～3)
- 6日(土) 夏休みアート・デイキャンプ(～7)
- 9日(火) 合格発表「編入学(知識)」
- 20日(土) 人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻・生涯発達専攻入試
- 21日(日) 人間総合科学研究科生涯発達専攻入試
- 23日(火) 大学院入試「8月期」(～26)
- 24日(水) 夏休みアート・デイキャンプ作品展(～30)
- 28日(日) ビジネス科学研究科企業科学専攻システムズ・マネジメントコース入試
- 29日(月) 第2学期入学式

9月

- 8日(木) 大学院合格発表
- 12日(月) 第2学期授業開始
- 18日(日) ビジネス科学研究科企業科学専攻企業法コース入試
- 25日(日) ビジネス科学研究科企業法学専攻入試





「総合研究棟A」

総合研究棟Aは、キャンパス・リニューアル計画の核となるもので、大学院重点化に対応する本学最初の総合研究棟として、2003年に竣工しました。



Tsukuba
Communications

